# 3章 まちづくりの方針と目指すべき都市の骨格構造

## 1. 設定の流れ

登別市におけるまちづくりの方針と目指すべき都市の骨格構造を設定するにあたり、これまでに示した「登別市の現況と課題」「まちづくりに関する市民意識」に加え、上位計画・関連計画による「市が目指すまちづくりの方向性」を踏まえて設定しました。

現状・課題整理

● 分野別の現状・課題

上位計画・関連計画

● 上位計画・関連計画の 位置づけ及び考え方 市民意識調査

- 市民ニーズ
- 潜在的な課題

## 登別市が抱える課題

まちづくりの方針(ターゲット)

課題解決のために必要な施策・誘導方針(ストーリー)

目指すべき都市の骨格構造

設定の流れイメージ



## 2. まちづくりの方針

登別市のまちづくりの方針について、次のとおり設定しました。

・将来的にさらに人口減
少や少子高齢化が進行
・市全域において人口密
度の低下が進行

#### • 高齢化が著しい地区が 偏在

土地利用

#### 市内外の流動状況

#### 近隣市町との相互の流 動が活発なため、都市 機能の広域的な役割分 担が必要

#### 都市構造の現況評価

- 公共交通や徒歩・自転 車で生活できるまちづ くりが必要
- 効率的な行政運営が必 亜

#### 水災害

- 市街地のほぼ全域で津 波災害の危険がある
- ・鷲別川及び胆振幌別 川・来馬川において、 洪水による浸水が想定 される

#### 登別市が 抱える課題

・効率よく生活サービス を提供するために居住 の誘導・集約が必要

#### 公共施設の維持 ・更新

- 公共施設の老朽化の進 行により、今後次々と 更新時期を迎える
- ・現状と同規模で建て替 えた場合、更新コスト が膨大となる

#### 公共交通

- ・若い世代になるほど路 線バスの認知度が低い
- ・自家用車に依存するこ となく暮らせる環境づ くりのため、公共交通 の適正化が必要

#### 地震災害

・市街地のほぼ全域にて 「震度6強」の揺れが 発生する可能性がある

- 鉄道駅周辺に空き家が 密集しており、安全性 の低下や公衆衛生の悪 化、景観の阻害が懸念 される
- ・ 低未利用土地等の利活 用の促進が必要

#### 都市機能の状況

- 公共施設の集約化・縮 小化や適正配置が必要
- 都市機能の適切な誘導 とそれらをつなぐ公共 交通の維持・確保が必 要

#### 市民アンケート (公共交通)

- 今後のまちづくりにお いて、公共交通の利便 性向上が望まれている
- 日常生活において近隣 市町との往来が多い

#### 土砂災害

• 市街地の外縁部におい て、土砂災害リスクが 高いエリアが存在

### まちづくりの 方針 (ターゲット)

#### < 居住 >

居住の誘導・集約に よる持続可能な 住環境の創出

#### <都市機能>

公共施設等の適正配 置や都市機能の 誘導・集約による賑 わいある利便性の高 い都市拠点の形成

- (1)公共施設等の適正配置 (複合化・集約化) と 公的不動産 (PRE) の 有効活用
- (2)近隣自治体と連携した 都市機能の提供
- (3)都市計画制度の活用・ 見直し
- (4)多世代が集う交流拠点 の形成
- (5)登別駅周辺の賑わいあ る拠点形成
- (6)まちなかにおけるビジ ネス展開の支援

#### < 公共交通 >

誰もが利用しやすく 持続可能な公共交通体系の実現

- (1)交通需要の変化に対応 した持続可能な公共交
- 性の高い公共交通サー
- (3)安全で円滑な道路ネッ トワークの形成と交通 結節点の機能強化

#### < 防災 >

災害リスクに備えた 安全・安心な住環境 の確<u>保</u>\_\_\_\_

### 課題解決 のために 必要な施策 ·誘導方針 (ストーリー)

- (1)市営住宅等の集約化・ 長寿命化
- (2)公共施設等跡地や公的 不動産 (PRE) の活用 による居住地の確保
- (3)低未利用土地等の適正 管理と有効活用 (4)子育て世代や若者の移
- 住・定住の促進 (5)高齢化社会に対応した 居住環境の整備
- (6)良質な住環境の形成

- 通体系の構築 (2)輸送資源の有効活用に よる移動支援と情報通
- 信技術を活用した利便 ビスの提供

#### (1)防災指針に基づく居住 の安全性確保

- ・津波災害
- 高潮・高波災害
- 洪水災害
- 地震災害
- ・土砂災害 ・火山災害

目指すべき都市の 骨格構造

多世代が安心して暮らせるコンパクトな多核連携都市



## 3. 目指すべき都市の骨格構造

登別市都市計画マスタープランの将来都市構造「山辺・海辺・川辺に囲まれたコンパクトな多核連携都市」との整合性に留意し、鷲別地域、幌別地域、登別地域においてコンパクトな市街地を形成するために、主要な鉄道駅や幹線道路を中心に都市拠点(=核)を設定し、それらが公共交通により連携した都市(=多核連携都市)を目指します。

なお、登別温泉地域については、市街地の大部分が土砂災害警戒区域等に指定されており、災害リスクが高い地域であることから都市拠点には設定しませんが、観光を基幹産業としている本市の重要な地域であるため、本計画において「観光・文化交流拠点エリア」として位置づけ、地域の特徴を踏まえた整備を図り、誰もが安全・安心に滞在できる地域を目指します。

## 【都市軸】

#### 広域連携軸



海岸沿いに形成されてきた鷲別地域、幌別地域、登別地域を貫き、室蘭市や白老町などと結ぶ道央自動車道、国道 36 号、道道洞爺湖登別線、JR室蘭本線を「広域連携軸」として位置づけ、登別市の生活や産業、広域的な交流・連携を支える骨格的な都市軸を形成します。

#### 地域連携・交流軸



鷲別地域、幌別地域、登別地域、登別温泉地域のほか、登別市内各地区を結ぶ、国道 36 号、JR室蘭本線、道道上登別室蘭線、道道登別室蘭インター線、道道弁景幌別線、道道洞爺湖登別線、道道倶多楽湖公園線を「地域連携・交流軸」として位置づけ、分散した登別市内各地域の生活や観光・交流を支える都市軸を形成します。

## 【拠点・エリア】

#### 都市拠点



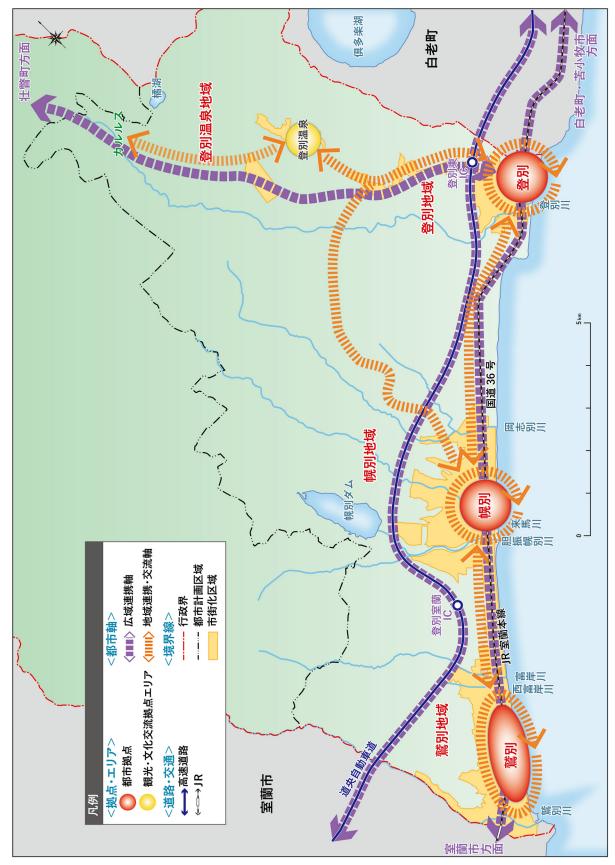
各地域の日常的な生活を支えるため、医療、福祉、商業、 教育、交流などの身近な生活利便機能を集積させた拠点で す。

#### 観光・文化交流拠点エリア



登別市内外から広く来訪者を呼び込み、ふれあい・交流による賑わいを生むエリアです。





目指すべき都市の骨格構造





# 4. 地域区分

本計画における地域区分を次のとおり示します。



地域区分の内訳

鷲別地域		
幌別地域	幌別町、幸町、新栄町、大和町、中央町、常盤町、柏木町、片倉町、新川町、 富士町、千歳町、来馬町、札内町、青葉町、緑町、桜木町、鉱山町、川上町	
登別地域	登別本町、登別港町、登別東町、富浦町、中登別町	
登別温泉地域	カルルス町、登別温泉町、上登別町	

